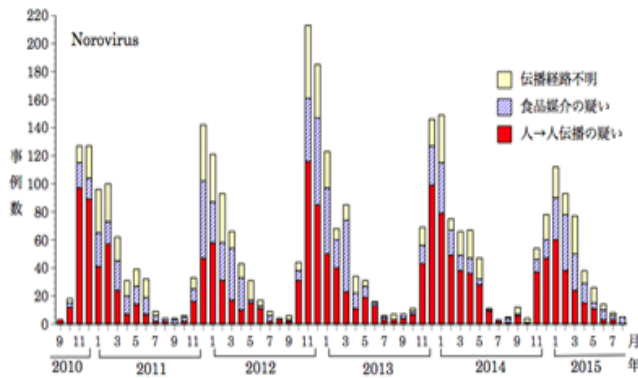




新型ノロウイルス流行の兆し

感染制御部

ノロウイルス (Norovirus) は、毎年秋から冬にかけて流行する冬型の胃腸炎です。ノロウイルスに感染した二枚貝類 (牡蠣、アサリ、シジミ、ハマグリなど) を生や不十分な調理状態で食べたり、ノロウイルスに感染したヒトの糞便・吐物、汚染された環境・物品などを介して、経口感染でヒトに感染します。感染後、24～48時間の潜伏期間の後に、突発的な嘔吐・下痢などの急性胃腸炎症状を起こします。通常は数日間で自然に回復しますが、高齢者・免疫能低下患者では重篤化する可能性もあります。インフルエンザと同様、これからの季節、注意を要する感染症です



ノロウイルスは毎年冬に流行します！

今シーズンのノロウイルス

特に今年は新型インフルエンザならぬ、新型ノロウイルスの大流行が懸念されています。ノロウイルスは大きく5つの遺伝子群 (GI~V) に分類され、そのうちの3群 (GI/II/IV) がヒトに感染性を持ちます。ウイルスの種類 (抗原) としてはさらに細分化され、病原性・感染性はウイルス株により異なることが知られています。昨年、神奈川県川崎市内で発症したノロウイルス感染者から新規遺伝子型のGII.P17-GII.17が検出され、その後の疫学調査によりこの新型ノロウイルスは他県にまたがり既に広域な流行を起こしていることが判明しました。すでに中国・台湾などアジアの周辺諸国でも流行が確認されており、国内で新型ノロウイルスが蔓延していてもおかしくないと考えられます。

新型株は、ヒトが持つ中和抗体結合部分の構造も変化している可能性が高く、日本人集団では免疫を持たないヒトが多いと考えられています。今年、この時期すでに報告されているノロウイルス

による感染性胃腸炎の症例は、2006年の大流行に次いで多く、この冬日本国内でも新型ノロウイルスが大流行する可能性が高いという警告が国立感染症研究所より発せられています。また、すでに医療現場で導入されている診断用簡易キットは、新型ノロウイルスに対して検査感度が低い傾向も指摘されており、早期診断できないケースも予想されます。

感染対策

嘔吐・下痢などの消化器症状がある患者には、ノロウイルス胃腸炎を念頭に、診療やケアを行うことが必要です。感染対策の基本は適切な手指衛生と防護用具の使用です。

手指衛生

流水および石鹸での手指衛生に心がけましょう。ノロウイルスに対して、アルコール手指衛生は無効です！

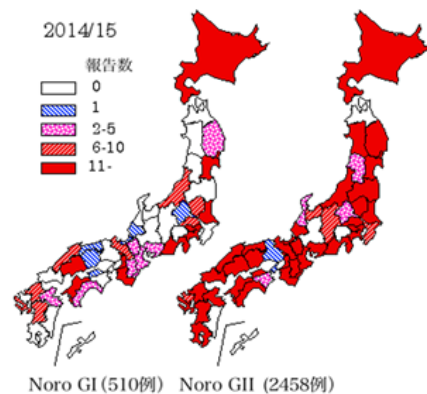


防護用具

診療やケアの際はマスク・エプロン・手袋を着用して行いましょう。患者から離れる際は必ず防護用具を外して手指衛生を行い環境を汚染させないようにして下さい。

環境整備

下痢、嘔吐のある患者の病室の高頻度手指接触面は、1回/1日以上湿拭消毒による清掃が必要です。次亜塩素酸ナトリウムの使い捨てクロス等がありますので感染制御部までご連絡ください。



ノロウイルスは全国的に流行します！

今年の冬は例年以上に手洗いなどの感染対策をお願いいたします。